

【B年】

復活節第五主日

全能の神よ、あなたをまことに知ることは、永遠の命に至る道です。どうかわたしたちが、み子イエス・キリストは道であり、真理であり、命であることを深く知って、み跡に従い、永遠の命に至る道を絶えず進むことができましように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

使徒言行録

朗読者 「使徒言行録は第八章二六節から」

26 さて、主の天使はフィリポに、「ここをたつて南に向かい、エルサレムからガザへ下る道に行け」と言った。そこは寂しい道である。27 フィリポはすぐ出かけて行った。折から、エチオピアの女王カンダケの高官で、女王の全財産の管理をしていたエチオピア人の宦官が、エルサレムに礼拝に

来て、28 帰る途中であった。彼は、馬車に乗って預言者イザヤの書を朗読していた。29 すると、“霊”がフィリポに、「追いかけて、あの馬車と一緒に行け」と言った。30 フィリポが走り寄ると、預言者イザヤの書を朗読しているのが聞こえたので、「読んでいることがお分かりますか」と言った。31 宦官は、「手引きしてくれる人がなければ、どうして分かりましょう」と言い、馬車に乗ってそばに座るようにフィリポに頼んだ。32 彼が朗読していた聖書の箇所はこれである。「彼は、羊のように屠り場に引かれて行った。毛を刈る者の前で黙している小羊のように、口を開かない。33 卑しめられて、その裁きも行われなかった。だが、その子孫について語れるだろう。彼の命は地上から取り去られるからだ。」34 宦官はフィリポに言った。「どうぞ教えてください。預言者は、だれについてこう言っているのでしょうか。自分についてですか。だれかほかの人についてですか。」35 そこで、フィリポは口を開き、聖書のこの箇所から説きおこして、イエスについて福音を告げ知らせた。36 道を進んで行くうちに、彼らは水のある所に来た。宦官は言った。「ここに水があります。洗礼を受けるのに、何か妨げがあるでしょうか。」38 そして、車を止めさせた。フィリポと宦官は二人とも水の中に入って行き、フィリポは宦官に洗礼を授けた。39 彼らが水の中から上がると、主の霊がフィリポを連れ去った。宦官はもはやフィリポの姿を見なかったが、喜びびにあふれて旅を続けた。40 フィリポはアゾトに姿を現した。そして、すべての町を巡りながら福音を告げ知らせ、

カイサリアまで行つた。

朗読者 「使徒言行録を終わります。」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第六編 一〜八節

- 1 全地よ、神に向かつて喜びの声を上げよ＝ 名々の栄えをほめ歌い、その栄光を賛美せよ
- 2 神に向かつて言え、「あなたのみ業は恐るべきもの＝ 敵も偉大なみにひざをかがめる
- 3 全地はあなたを伏し拝み＝ 名をたたえて喜び歌う」
- 4 来て、神のみ業を仰ぎ見よ＝ 人びとに行われた恐るべきみ業を
- 5 神は海を陸に変え、人は川の中を歩いて渡つた＝ 彼らは神のみ業を感謝して喜んだ
- 6 神は力を現してとこしえに治め＝ 諸国に目を注ぎ、逆らう者を高ぶらせない
- 7 すべての民よ、わたしたちの神をたたえ＝ 賛美の声を響かせよ

- 8 神はわたしたちに命を与え＝ 足を揺るぎなく支えられる

使徒書

朗読者 「使徒書はヨハネの手紙Ⅰ 第三章十八節から」

18 子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう。

19 これによって、わたしたちは自分が真理に属していることを知り、神の御前で安心できます、20 心に責められることがあるうとも。神は、わたしたちの心よりも大きく、すべてをご存じだからです。21 愛する者たち、わたしたちは心に責められることがなければ、神の御前で確信を持つことができ、22 神に願うことは何でもかなえられます。わたしたちが神の掟を守り、御心に適うことを行っているからです。23 その掟とは、神の子イエス・キリストの名を信じ、この方がわたしたちに命じられたように、互いに愛し合うことです。24 神の掟を守る人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってください。神がわたしたちの内にとどまってください。神が与えてくださった「霊」によって分かれます。

朗読者 「ここに使徒書終わる。」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ヨハネによる福音書第十四章十五節以下に記さ

れた主イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

15 「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。16 わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。17 この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これから、あなたがたの内（うち）にいるからである。18 わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻（もど）って来る。19 しばらくすると、世はもうわたしを見なくなるが、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きてるので、あなたがたも生きることになる。

20 かの日には、わたしが父の内（うち）におり、あなたがたがわたしの内（うち）におり、わたしもあなたがたの内（うち）にいることが、あなたがたに分かる。21 わたしの掟（おきて）を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である。わたしを愛する人は、わたしの父に愛される。わたしもその人を愛して、その人にわたし自身を現す。」

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」